

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors

タイトル：「アフリカに関する史的研究と資料」

日時：平成27年2月26日（木）午後2時30分より5時30分

場所：東京外国語大学本郷サテライト7階

馬場多聞（AA 研短期共同研究員／九州大学大学院）

「ラスール朝史料における東アフリカ」

本発表では、イエメンをおさめたラスール朝（1229-1454）に関連する史料（年代記、人名録、地理書、農事暦、行政文書集）における東アフリカの記述を抽出、検討した。特に両地域の支配権力間の外交や、物や人、情報の移動ならびに連関に着目し、先行研究では未だ扱われていないいくつかの新情報を提示した。14世紀に作成されたイエメンと東アフリカに言及した地図を参照することで、往時の世界観に立脚した分析を可能な限り試みた。

発表後まず、コメンテーターである栗山保之氏から、イエメンと東アフリカを往来する船の航海時期ならびに季節風について、詳しい補足がなされた。全体討議においては、14世紀後半にイエメンにおいて著されたアムハラ語（+ゲエズ語）—アラビア語辞書に関する知見が、両地域間の交流ならびにイエメン側が有した東アフリカ観について考える上で重要であるものとして、参加者の関心を大いに引いた。また、ラスール朝期に限らない様々な時代のイエメン史料に目を通すことで、東アフリカとの関わりについてまた異なった側面からアプローチできるのではないかという建設的な意見も出された。他、一般の方から、アデン港へ来訪した商人集団がラスール朝の史料にどのように書かれてあるのかという質問が出された。